

【プレゼンテーション資料】

**2013年度第1四半期 連結業績 および  
ソニー生命の2013年6月末MCEV**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社  
2013年8月12日

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

＜ネットカンファレンス(電話会議)による決算説明会＞

日時：2013年8月12日(月) 16:00～17:00

内容：「2013年度 第1四半期 連結決算説明会」

発表者：ソニーフィナンシャルホールディングス  
専務取締役 渡辺 寛敏

ソニーフィナンシャルホールディングス  
渡辺 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、当社グループの  
2013年度 第1四半期 連結業績についてご説明いたします。

スライド4をご覧ください。

■ 2013年度第1四半期 連結業績	P.3
■ 2013年度 連結業績予想	P.28
■ 2013年度 期末配当予想の上方修正	P.30
■ ソニー生命の2013年6月末MCEV および 経済価値ベースのリスク量	P.32
■ 参考情報	P.35

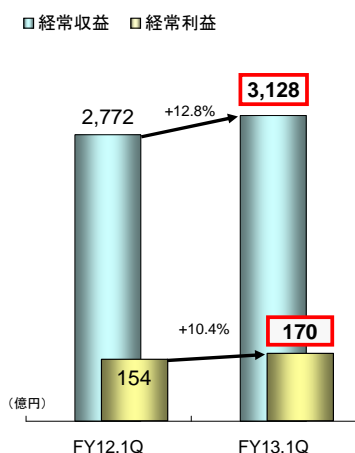
**免責事項:**

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。当社グループは、いずれもそのような見直しの義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

## 2013年度第1四半期 連結業績



## 連結業績ハイライト(1)



		(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
生命保険事業	経常収益		2,476	2,809	+332	+13.4%
	経常利益		137	133	△4	△2.9%
損害保険事業	経常収益		217	230	+13	+6.2%
	経常利益		7	13	+6	+84.9%
銀行事業	経常収益		83	94	+10	+12.5%
	経常利益		8	22	+13	+154.1%
セグメント間の内部経常収益・利益(※)	経常収益		△5	△6	△0	-
	経常利益		0	0	+0	+44.2%
グループ連結	経常収益		2,772	3,128	+355	+12.8%
	経常利益		154	170	+16	+10.4%
	四半期純利益		96	96	+0	+0.4%

(※)主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益。

		(億円)	13.3末	13.6末	前年度末比	
グループ連結	総資産		80,961	82,113	+1,151	+1.4%
	純資産		4,354	4,112	△242	△5.6%

(注)包括利益: FY12.1Q ……177億円、FY13.1Q ……△133億円

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

まず、当社グループの連結業績についてご説明いたします。

連結経常収益は、全ての事業において増加した結果、前年同期に比べ12.8%増加し、3,128億円となりました。

連結経常利益は、生命保険事業においては横ばいとなったものの、損害保険事業および銀行事業において増加し、前年同期に比べ10.4%増加の170億円となりました。

連結四半期純利益は、前年同期比0.4%増の96億円に留まりました。これは主に、前年同期において、ソニー銀行の子会社であったソニーバンク証券の譲渡に係る税効果により、利益が押し上げられたためです。

純資産は、金利上昇にともなうその他有価証券評価差額金の減少と株主配当の支払などにより、前年度末に比べて242億円減少の4,112億円となりました。

次のスライド5では、各事業の業績要旨を記載しております。後ほどご覧ください。

スライド6をご覧ください。

### <前年同期比分析>

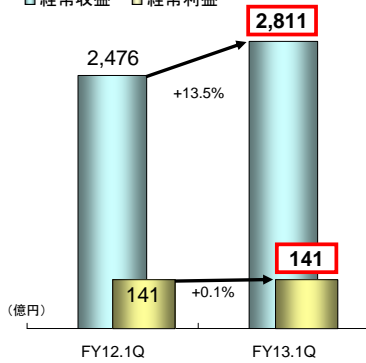
- 生命保険事業: 保険料率改定の影響により一時払保険料が減少したものの、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入は増加。資産運用収益は市況回復にともない特別勘定の資産運用損益が改善したことなどにより増加。以上の結果、経常収益は前年同期に比べ増収。経常利益は、標準利率改定の影響による責任準備金繰入額の増加が減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、前年同期に比べ横ばい。
- 損害保険事業: 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増収。経常利益は、経常収益の増加に加え、自動車保険の料率改定や事故発生率の低下により損害率が低下したことなどから、増益。
- 銀行事業: 堅調な住宅ローン残高の積み上がりにより貸出金利息が増加したこと、および顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加したことにより、経常収益は増収。経常利益は、住宅ローンなどの金利リスクをヘッジする目的で保有している金融派生商品の評価損益を中心に市場運用にかかる利益も改善したことから、増益。
- 連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業、および銀行事業のすべての事業で増加し、前年同期比12.8%増の3,128億円。経常利益は、生命保険事業においては横ばいとなったものの、損害保険事業および銀行事業において増加し、前年同期比10.4%増の170億円。四半期純利益は、前年同期比0.4%増の96億円。これは主に、前年同期において、ソニー銀行の子会社であったソニーバンク証券の譲渡に係る税効果(利益押し上げ要因)があったことによるもの。

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

## ソニー生命 業績ハイライト(単体)



□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 経常収益は増収、経常利益は横ばい。
- ◆ 保険料等収入は、保険料率改定の影響により一時払保険料が減少したものの、保有契約高の堅調な推移により、若干の増加。
- ◆ 資産運用収益は、市況回復による特別勘定資産運用損益の改善などにより、増加。
- ◆ 経常利益は、標準利率改定の影響による責任準備金繰入額の増加が減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などによりほぼ横ばい。

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
<b>経常収益</b>	2,476	<b>2,811</b>	+335	+13.5%
保険料等収入	2,179	<b>2,213</b>	+34	+1.6%
資産運用収益	278	<b>558</b>	+280	+100.7%
うち利息及び配当金等収入	257	<b>289</b>	+31	+12.4%
うち金銭の信託運用益	13	<b>13</b>	+0	+0.7%
うち有価証券売却益	7	<b>0</b>	△7	△99.8%
うち特別勘定資産運用益	—	<b>256</b>	+256	—
<b>経常費用</b>	2,334	<b>2,669</b>	+335	+14.4%
保険金等支払金	699	<b>817</b>	+118	+17.0%
責任準備金等繰入額	1,072	<b>1,503</b>	+431	+40.2%
資産運用費用	261	<b>19</b>	△242	△92.5%
うち特別勘定資産運用損	236	<b>—</b>	△236	△100.0%
事業費	261	<b>280</b>	+18	+7.1%
<b>経常利益</b>	141	<b>141</b>	+0	+0.1%
<b>四半期純利益</b>	82	<b>80</b>	△1	△1.9%

(億円)	13.3末	13.6末	前年度末比	
<b>有価証券残高</b>	52,115	<b>53,810</b>	+1,694	+3.3%
<b>責任準備金残高</b>	54,729	<b>56,233</b>	+1,503	+2.7%
<b>純資産額</b>	3,423	<b>3,164</b>	△258	△7.6%
その他有価証券評価差額金	802	<b>575</b>	△227	△28.3%
<b>総資産額</b>	59,527	<b>60,628</b>	+1,101	+1.8%
特別勘定資産	5,506	<b>5,746</b>	+239	+4.4%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、前年同期に比べ13.5%増加の、2,811億円となりました。そのうち、保険料等収入は、保険料率改定の影響により一時払保険料が減少したものの、保有契約高の堅調な推移により、前年同期に比べ、1.6%増加の2,213億円となりました。

資産運用収益は、市況回復にともなう特別勘定の資産運用損益の改善などにより558億円を計上し、前年同期からほぼ倍増となりました。

経常利益は、標準利率改定の影響による責任準備金繰入額の増加が減益要因となったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、前年同期に比べてほぼ横ばいの141億円となりました。

スライド7では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。続きまして、スライド8をご覧ください。

# ソニー生命 主要業績指標(単体)

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	増減率
新契約高	10,665	10,333	△3.1%
解約・失効高	4,975	4,564	△8.3%
解約・失効率	1.38%	1.21%	△0.17pt
保有契約高	364,320	381,602	+4.7%
新契約年換算保険料	174	168	△3.3%
うち第三分野	44	39	△12.1%
保有契約年換算保険料	6,430	6,772	+5.3%
うち第三分野	1,515	1,641	+8.3%

## <主な増減要因>

- ◆ 保険料率改定の影響により、減少。
- ◆ 定期保険を中心に総じて低下。
- ◆ 保険料率改定の影響により、減少。第三分野は、特に一時払終身介護保険が減少。

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	増減率
資産運用損益(一般勘定)	253	283	+11.8%
基礎利益	147	153	+3.7%
逆ざや額(△)	△5	12	-

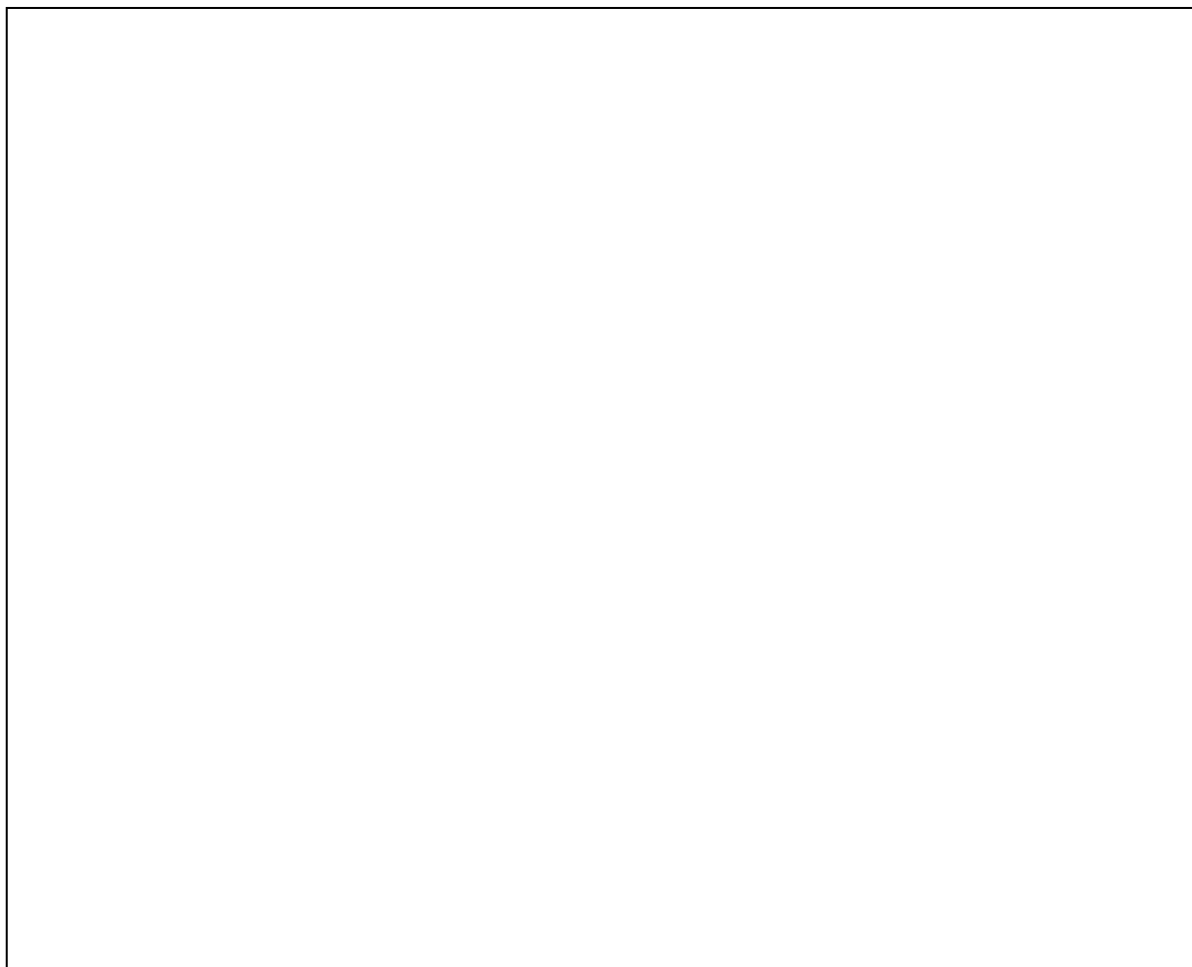
(注) 逆ざや額のプラスは順ざや額を表します。

- ◆ 標準利率改定の影響による責任準備金繰入額の増加が減益要因になったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、増加。

	13.3末	13.6末	前年度末比
単体 ソルベンシー・マージン比率	2,281.8%	2,255.3%	△26.5pt

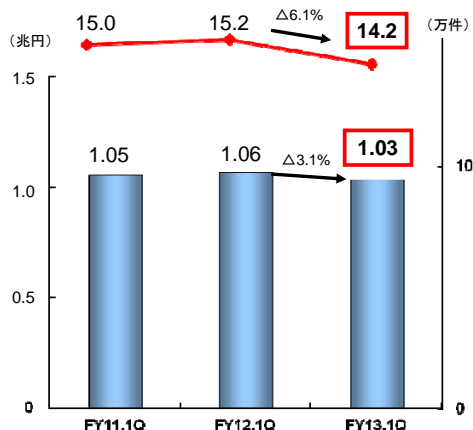
- ◆ ソルベンシー・マージン比率は、金利上昇にともなうその他有価証券評価差額金の減少などにより、前年度末から減少したものの、引き続き高い水準を維持。

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

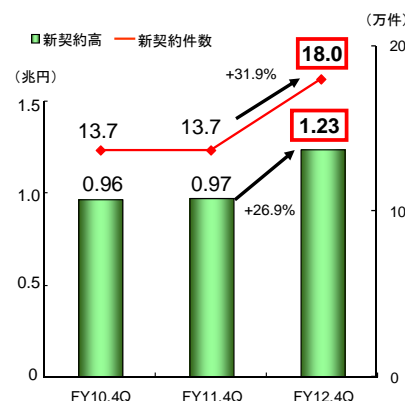


## 新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■新契約高 — 新契約件数



### 【参考】 4Q(3カ月)の新契約高・件数



※新契約高は百億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

#### (左側のグラフ)

棒グラフで示しております新契約高は、保険料率改定の影響により、前年同期比3.1%減の1兆333億円となりました。また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期比6.1%減の14万2千件となりました。

#### (右側のグラフ)

次に、保険料率改定の影響を第4四半期との比較でご説明いたします。2012年度第4四半期(3カ月)は、4月からの標準利率の改定に伴い、一部商品で保険料が値上がりとなることから、需要の前倒しが見られました。この結果、2012年度第4四半期の新契約高は前年同期に比べ26.9%の増加となりました。

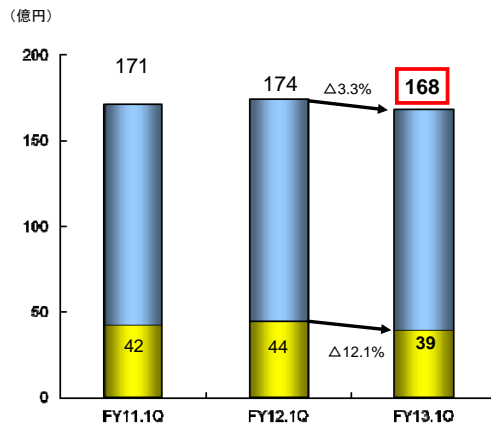
当四半期の新契約高は、この反動があったことから前年同期に比べて減少しました。

スライド9をご覧ください。

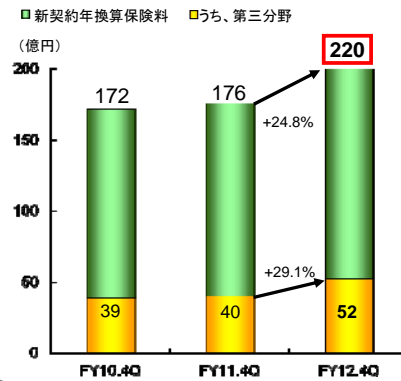


## 新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



### 【参考】 4Q(3カ月)の新契約年換算保険料



※新契約年換算保険料は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

#### (左側のグラフ)

新契約年換算保険料も、新契約高と同様に、保険料率改定の影響により、前年同期比3.3%減の168億円となりました。

このうち第三分野は、特に一時払終身介護保険が減少し、前年同期比12.1%減の39億円となりました。

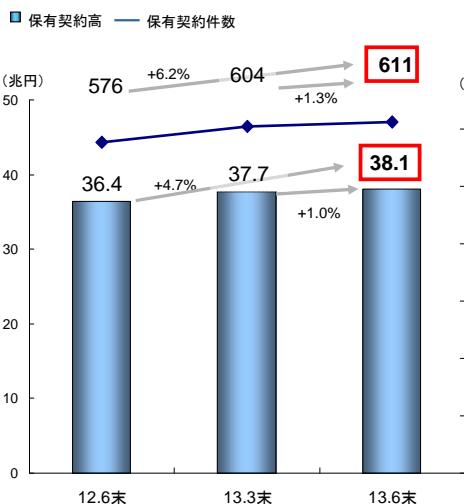
#### (右側のグラフ)

2012年度第4四半期(3カ月)の新契約年換算保険料は、新契約高と同様に前述の需要の前倒しがあり、前年同期に比べ増加しました。

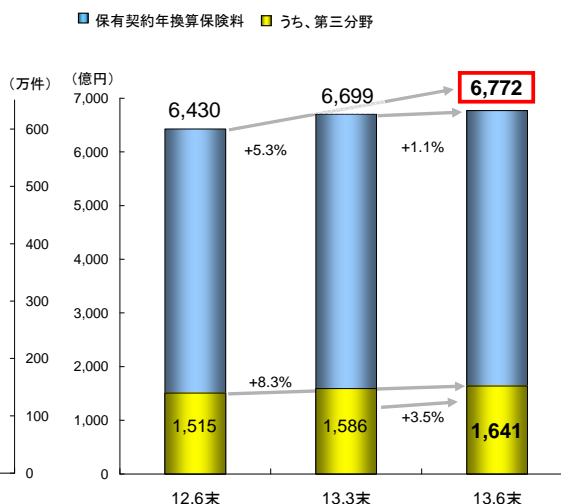
スライド10をご覧ください。

## ソニー生命の業績(3)

### 保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



### 保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



※保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

新契約および解約・失効等を織り込んだ保有契約の状況についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております保有契約高は、新契約の獲得と解約・失効率の低下により、前年同期末に比べ4.7%増加の38兆1千億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ6.2%増加の611万件となりました。

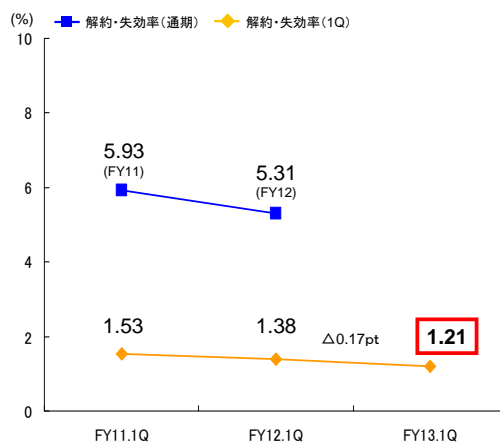
(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は前年同期末に比べ5.3%増加の6,772億円となりました。このうち第三分野は、前年同期末に比べ8.3%増加の1,641億円となりました。

スライド11をご覧ください。

## 解約・失効率\* (個人保険+個人年金保険)

\* 解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない  
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率

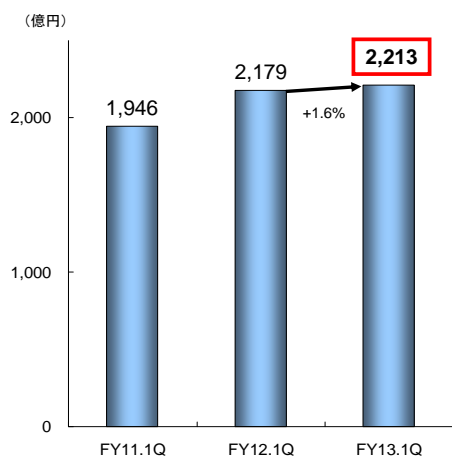


解約・失効率は、定期保険を中心に引き続き低下し、前年同期に比べ0.17ポイント低下の1.21%となりました。

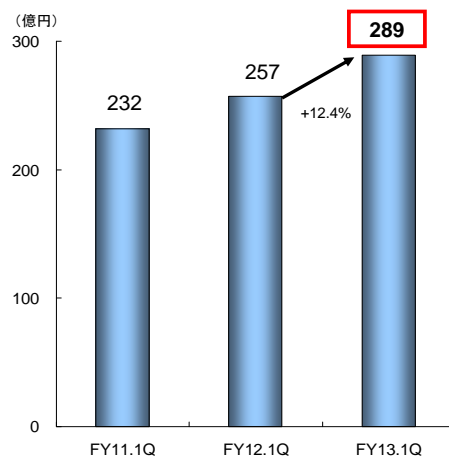
続きまして、スライド12をご覧ください。

## ソニー生命の業績(5)

### 保険料等収入



### 利息及び配当金等収入



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

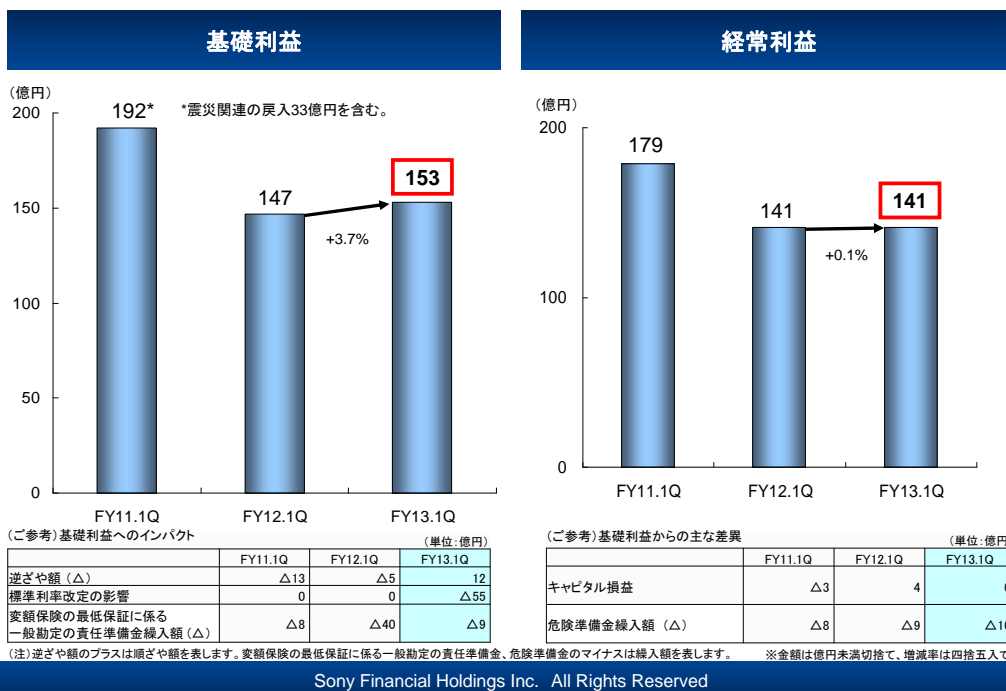
#### (左側のグラフ)

保険料等収入は、保険料率改定の影響により一時払保険料が減少したものの、保有契約高の堅調な推移により、前年同期に比べ1.6%増加の2,213億円となりました。

#### (右側のグラフ)

利息及び配当金等収入は、業容拡大による運用資産の拡大にともない、前年同期に比べ12.4%増加の289億円となりました。

次のスライド13をご覧ください。



#### (左側のグラフ)

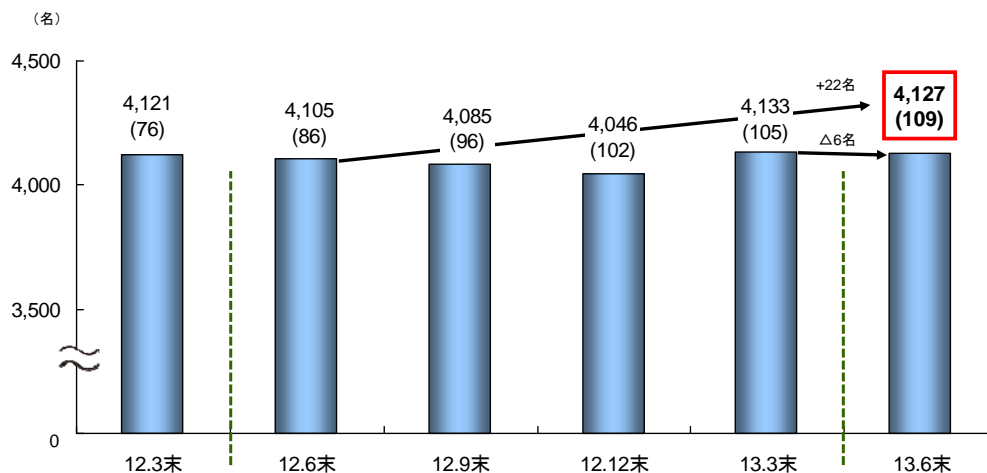
基礎利益は、標準利率改定の影響による責任準備金繰入額の増加が減益要因になったものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金の繰入額の減少や逆ざやの解消などにより、前年同期に比べ、3.7%増加の153億円となりました。

#### (右側のグラフ)

経常利益につきましては、前年同期に比べて横ばいで推移しました。

次のスライド14をご覧ください。

ライフプランナー在籍数



(注) ( )は、嘱託ライフプランナー数と契約ライフプランナー数の合計で、内数です。  
 嘱託ライフプランナーおよび契約ライフプランナーとは、定年退職を迎えた後も、販売状況などの一定の要件を満たすことで、ライフプランナーとしての活動を続けている営業社員です。

※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

ライフプランナー在籍数は、前年同期末から22名増加、前年度末から6名減少の、4,127名となりました。

なお、当四半期から嘱託ライフプランナーに加え、契約ライフプランナーの在籍数も加算しております。

スライド15をご覧ください。

## 一般勘定資産の内訳

(億円)	13.3末		13.6末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	45,610	84.4%	46,919	85.5%
株式	311	0.6%	345	0.6%
外国公社債	620	1.1%	645	1.2%
外国株式等	254	0.5%	260	0.5%
金銭の信託	3,061	5.7%	2,955	5.4%
約款貸付	1,450	2.7%	1,466	2.7%
不動産	703	1.3%	678	1.2%
現預金・コールローン	1,033	1.9%	378	0.7%
その他	977	1.8%	1,233	2.2%
合計	54,021	100.0%	54,882	100.0%

## &lt;資産運用状況&gt;

金利リスクの低減を目的として、保険契約の持つ長期の負債特性に合わせて資産サイドの保有債券のデュレーションを長期化。

公社債：2013年度・・・超長期債購入継続

〔債券のDuration〕

2012. 3末 19.2年

2013. 3末 19.9年

2013. 6末 19.5年

■「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用。

■一般勘定資産における公社債(金銭の信託で運用されているものを含む)の実質的な構成比

2013.6末・・・90.9% (2013.3末・・・90.1%)

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

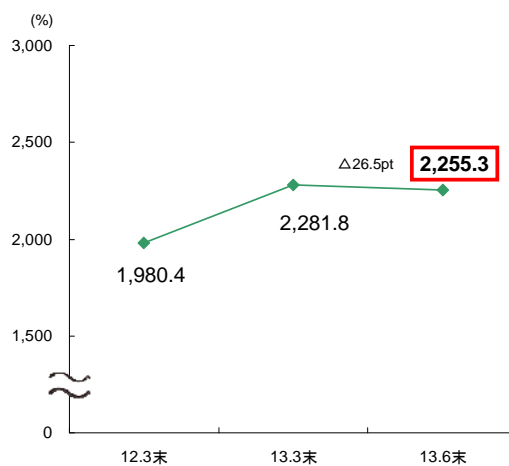
前年度末と比較した、2013年6月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

引き続き、超長期債への投資を推進したことから公社債の割合が高まり、金銭の信託で運用されている公社債も含めた実質ベースの公社債比率は2013年6月末で90.9%となりました。

今後も保険負債の持つ金利リスクを適切にコントロールするため、保険料収入などから生じる新たな資金の大半を超長期債に投資していきます。

次のスライド16をご覧ください。

## 単体ソルベンシー・マージン比率



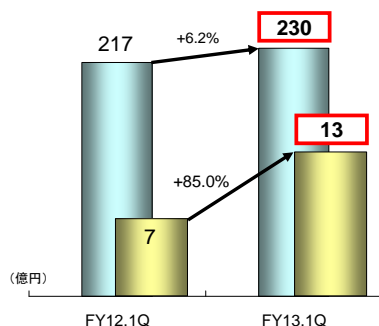
ソルベンシー・マージン比率は、金利上昇にともなう、その他有価証券評価差額金の減少などにより、前年度末から26.5pt減少の2,255.3%となりましたが、引き続き高い水準を維持しております。

続きまして、スライド17をご覧ください。



## ソニー損保 業績ハイライト

□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、経常収益は増加。
- ◆ 経常利益は、経常収益の増加に加え、自動車保険の料率改定や事故発生率の低下により損害率が低下したことなどから、増益。

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
<b>経常収益</b>	217	230	+13	+6.2%
保険引受収益	214	228	+13	+6.1%
資産運用収益	2	2	+0	+22.4%
<b>経常費用</b>	210	217	+7	+3.4%
保険引受費用	161	167	+5	+3.7%
資産運用費用	0	0	+0	-
営業費及び一般管理費	48	50	+1	+2.5%
<b>経常利益</b>	7	13	+6	+85.0%
<b>四半期純利益</b>	4	8	+4	+93.6%

(億円)	13.3末	13.6末	前年度末比	
<b>責任準備金残高</b>	706	736	+30	+4.4%
<b>純資産額</b>	199	211	+12	+6.2%
<b>総資産額</b>	1,274	1,308	+34	+2.7%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、前年同期比6.2%増加の230億円となりました。

経常利益は、経常収益の増加に加え、自動車保険の料率改定や事故発生率の低下により損害率が低下したことなどから、85.0%増加の13億円となりました。四半期純利益は、前年同期比93.6%増加の8億円となりました。

スライド18、19では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド20 から、ソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

# ソニー損保 主要業績指標

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
元受正味保険料	212	224	+5.7%	◆ 主力の自動車保険を中心に増加。
正味収入保険料	214	227	+5.9%	
正味支払保険金	114	117	+2.5%	◆ 正味損害率は、自動車保険の料率改定や事故発生率の低下により、低下。
保険引受利益	4	10	+119.7%	
正味損害率	59.9%	58.2%	△1.7pt	
正味事業費率	24.5%	23.8%	△0.7pt	◆ 正味事業費率は、自動車の保険料増収に加え、契約獲得費用を適切にコントロールしたことから、低下。
コンバインド・レシオ	84.4%	82.0%	△2.4pt	

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料  
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

	13.3末	13.6末	前年度末比	
保有契約件数	155万件	156万件	+1万件	+0.8%
単体 ソルベンシー・マージン比率	504.2%	535.5%	+31.3pt	

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

## ソニー損保 種目別保険引受の状況

### 元受正味保険料

(百万円)	FY12.1Q	FY13.1Q	増減率
火 災	63	55	△13.2%
海 上	—	—	—
傷 害	1,931	2,044	+5.9%
自 動 車	19,219	20,321	+5.7%
自 賠 責	—	—	—
合計	21,214	22,420	+5.7%

### 正味収入保険料

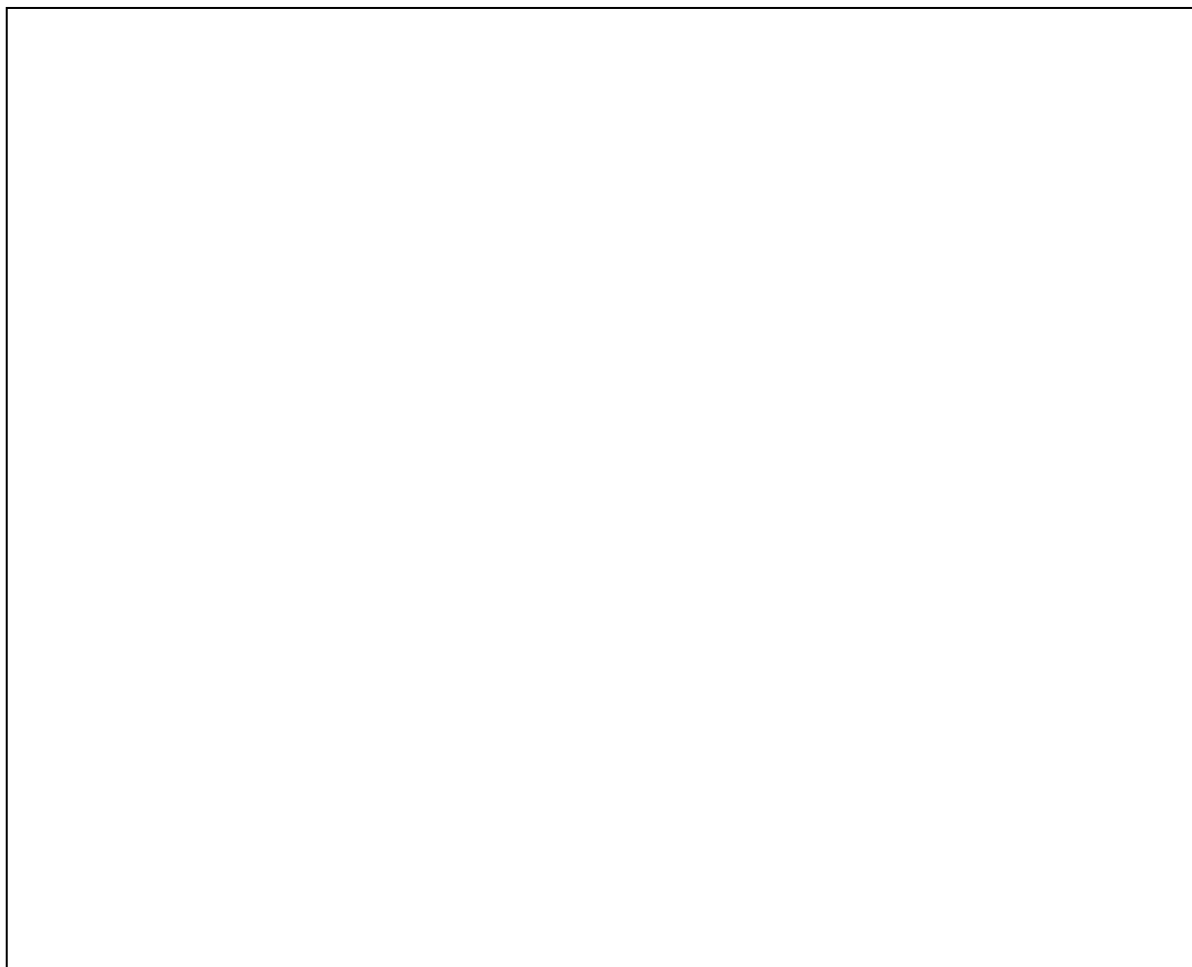
(百万円)	FY12.1Q	FY13.1Q	増減率
火 災	69	74	+8.5%
海 上	42	44	+3.1%
傷 害	2,001	2,124	+6.1%
自 動 車	19,150	20,257	+5.8%
自 賠 責	217	241	+10.8%
合計	21,481	22,741	+5.9%

### 正味支払保険金

(百万円)	FY12.1Q	FY13.1Q	増減率
火 災	0	0	△63.1%
海 上	122	32	△73.6%
傷 害	467	463	△0.9%
自 動 車	10,631	10,994	+3.4%
自 賠 責	239	255	+6.6%
合計	11,461	11,745	+2.5%

(注)「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シェア)が含まれる。

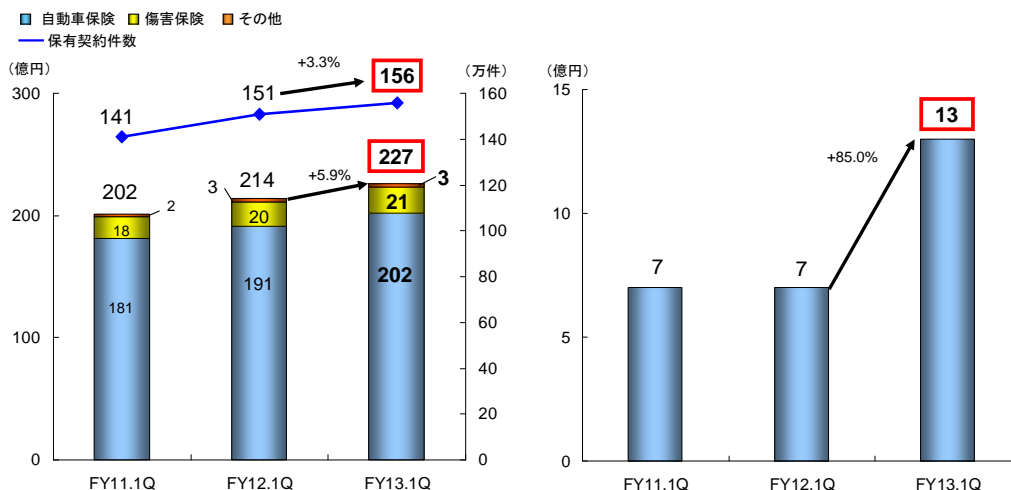
※金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示



# ソニー損保の業績(1)

## 正味収入保険料と保有契約件数

## 経常利益



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。  
 両方で正味収入保険料の99%を占める。  
 傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### (左側のグラフ)

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末比で3.3%増加の156万件となりました。自動車の料率改定を昨年11月と本年4月に実施しましたが、新規インターネット割引額の増額効果もあり、堅調に推移しました。

棒グラフで示しております正味収入保険料は、前年同期に比べ5.9%増加し、227億円となりました。

### (右側のグラフ)

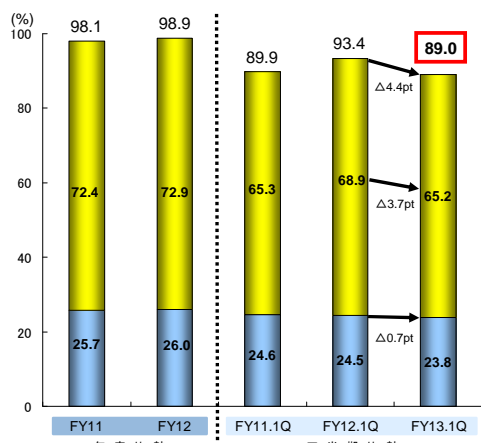
経常利益は、先のご説明のとおり、損害率の低下などにより、前年同期に比べて大幅に増加しました。

スライド21をご覧ください。

## ソニー損保の業績(2)

### E.I.損害率 + 正味事業費率

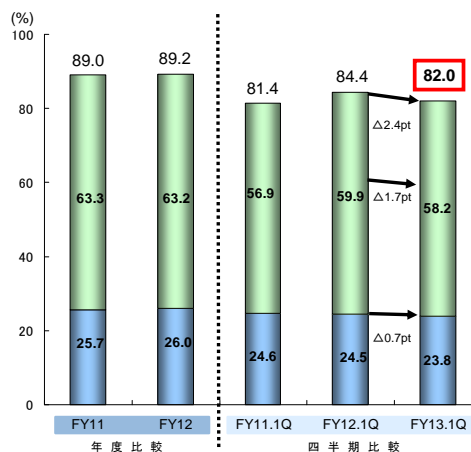
■ E.I.損害率 ■ 正味事業費率



(注) E.I.損害率 = (正味支払保険金+支払備金繰入額+損害調査費)÷既経過保険料  
 [除く地震保険、自賠責保険]  
 正味事業費率 = 保険引込に係る事業費÷正味収入保険料

### <参考> コンバインド・レシオ (正味損害率 + 正味事業費率)

■ 正味損害率 ■ 正味事業費率



(注) 正味損害率 = (正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料  
 正味事業費率 = 保険引込に係る事業費÷正味収入保険料

#### (左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、スライドで「E.I.損害率」と記載しております、損害率を発生ベースで表したアード・インカード損害率についてご説明いたします。

E.I.損害率は、主に自動車保険の料率改定や事故発生率の低下により、前年同期に比べ3.7ポイント低下し、65.2%となりました。

正味事業費率は、自動車保険料の増収に加え、契約獲得費用を適切にコントロールしたことから、前年同期に比べ0.7ポイント低下し、23.8%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ4.4ポイント低下し、89.0%となりました。

#### (右側のグラフ)

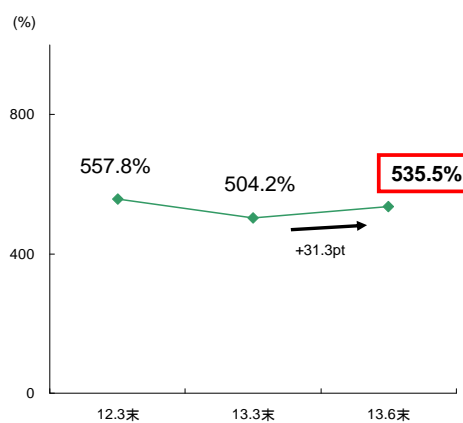
正味損害率は、前年同期に比べ1.7ポイント低下し58.2%となりました。

なお、正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ2.4ポイント低下し、82.0%となりました。

スライド22をご覧ください。

### 単体ソルベンシー・マージン比率



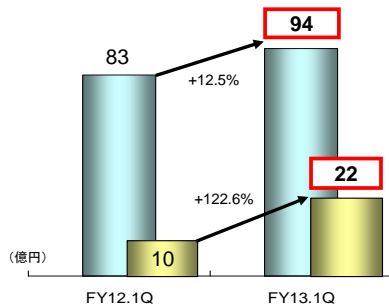
単体ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ31.3ポイント上昇し、535.5%となりました。

次のスライド23から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

# ソニー銀行 業績ハイライト(連結・単体)



□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



**<連結>**  
 ◆ 堅調な住宅ローン残高の積み上がりや顧客の活発な外貨取引を主に増収増益。一方、連結四半期純利益は、ソニーバンク証券の譲渡に係る税効果が前年同期に利益を押し上げた反動により、前年同期比横ばい。

**<銀行単体>**  
 ◆ 業務粗利益・業務純益ともに増加。  
 ・ 資金運用収支は、住宅ローンを中心とした堅調な貸出金利息の増加と資金調達費用の減少により増加。  
 ・ その他業務収支も、顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加したことに加えて、住宅ローンなどの金利リスクをヘッジする目的で保有している金融派生商品の評価損益を中心に市場運用にかかる利益が改善し、増加。  
 ◆ 四半期純利益(損失)は14億円へ黒字転換。前年同期はソニーバンク証券株式の評価損を計上していた。

**<連結>**

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
連結経常収益	83	94	+10	+12.5%
連結経常利益	10	22	+12	+122.6%
連結四半期純利益	14	14	△0	△1.4%

**<銀行単体>**

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
経常収益	75	87	+12	+17.1%
業務粗利益	44	59	+14	+33.4%
資金運用収支	40	50	+9	+23.5%
役員取引等収支	0	△0	△0	—
その他業務収支	3	9	+5	+181.3%
営業経費	35	36	+1	+3.4%
業務純益	9	22	+13	+148.9%
経常利益	8	22	+14	+162.2%
四半期純利益(損失)	△12	14	+26	—

(億円)	13.3末	13.6末	前年度末比	
純資産額	678	686	+8	+1.2%
その他有価証券評価差額金	65	53	△11	△17.5%
総資産額	20,050	20,000	△50	△0.3%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行の連結決算は、堅調な住宅ローン残高の積み上がりや顧客の活発な外貨取引を主に増収増益となりました。連結経常収益は前年同期比12.5%増加の94億円、連結経常利益は前年同期比2倍強の22億円となりました。一方、連結四半期純利益は、ソニーバンク証券の譲渡に係る税効果が前年同期に利益を押し上げた反動により、前年同期比横ばいの14億円となりました。

ソニー銀行単体においては、堅調な住宅ローン残高の積み上がりによる貸出金利息の増加と資金調達費用の減少により資金運用収支が増加しました。さらに、顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加したことに加えて、住宅ローンなどの金利リスクをヘッジする目的で保有している金融派生商品の評価損益を中心に市場運用にかかる利益が改善し、業務粗利益は前年同期比33.4%増加の59億円になりました。業務純益は22億円と倍増しました。

四半期純利益(損失)は、前年同期においてはソニーバンク証券株式の評価損を計上したため純損失を計上しましたが、当四半期は14億円へ黒字転換しました。

スライド24では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。スライド25をご覧ください。

# ソニー銀行 主要業績指標(単体)①

(億円)	12.6末	13.3末	13.6末	前年度末比	
<b>預かり資産残高</b>	18,680	19,743	19,656	△87	△0.4%
預金	17,672	18,574	18,490	△83	△0.4%
円預金	14,018	14,672	14,669	△2	△0.0%
外貨預金	3,654	3,902	3,821	△80	△2.1%
投資信託	1,008	1,169	1,165	△3	△0.3%
<b>貸出金残高</b>	8,664	9,702	9,891	+189	+2.0%
住宅ローン	7,744	8,603	8,781	+178	+2.1%
その他	920	1,098	1,110 <sup>*1</sup>	+11	+1.0%
<b>自己資本比率<sup>*2</sup> (国内基準)</b>	11.29%	11.98%	11.89%	△0.09pt	
Tier1 比率	9.36%	8.85%	9.04%	+0.19pt	

## <主な増減要因>

◆ 円預金は、円安進行にともなう外貨預金からの振替えがあったものの、低金利による魅力低下もあり、前年度末に比べてほぼ横ばい。

◆ 外貨預金は、為替相場の円安進行により、売買は活発化したものの、円預金への振替えが進み、残高は減少。

◆ 貸出金残高は、住宅ローン残高の伸びにより、増加。

\*1 うち1,047億円は法人向け

\*2 27ページの自己資本比率(国内基準)の推移ご参照

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示



## ソニー銀行 主要業績指標(単体)②

### <参考> 社内管理ベース

(億円)	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比	
<b>業務粗利益</b>	44	59	+14	+33.4%
資金収支 <sup>1</sup> ①	42	45	+3	+9.2%
手数料等収支 <sup>2</sup> ②	1	4	+2	+119.3%
その他収支 <sup>3</sup>	0	8	+8	—
<b>コアベース業務粗利益 (A) =①+②</b>	43	50	+6	+14.1%
<b>営業経費等 ③</b>	35	35	+0	+1.6%
<b>コアベース業務純益 =(A)-③</b>	8	14	+5	+63.8%

#### ■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

\*1 資金収支 …… 資金運用収支+その他業務収支に計上されている  
実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

\*2 手数料等収支 … 役員取引等収支+その他業務収支に計上されている  
お客さまとの外貨売買取引にかかる収益

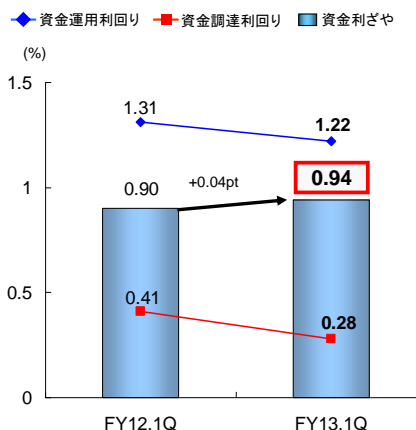
\*3 その他収支 …… その他業務収支から\*1と\*2の調整分を控除したもの  
(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

#### ■ コアベース

社内管理ベースの その他収支 (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ  
関連損益)を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な利益を表すもの

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### <参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り

このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

#### (左側のテーブル)

資金収支は、堅調な住宅ローン残高の積み上がりによる貸出金利息の増加と資金調達費用の減少により、前年同期比9.2%増加の45億円となりました。

手数料等収支は、顧客の外貨取引が活発になり、お客さまとの外貨売買にかかる手数料収入が増加した結果、4億円と倍増しました。

その他収支につきましては、住宅ローンなどの金利リスクをヘッジする目的で保有している金融派生商品の評価損益を中心に市場運用にかかる利益が改善し、8億円となりました。

その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ6億円増加の50億円、コアベース業務純益も5億円増加の14億円となりました。

#### (右側のグラフ)

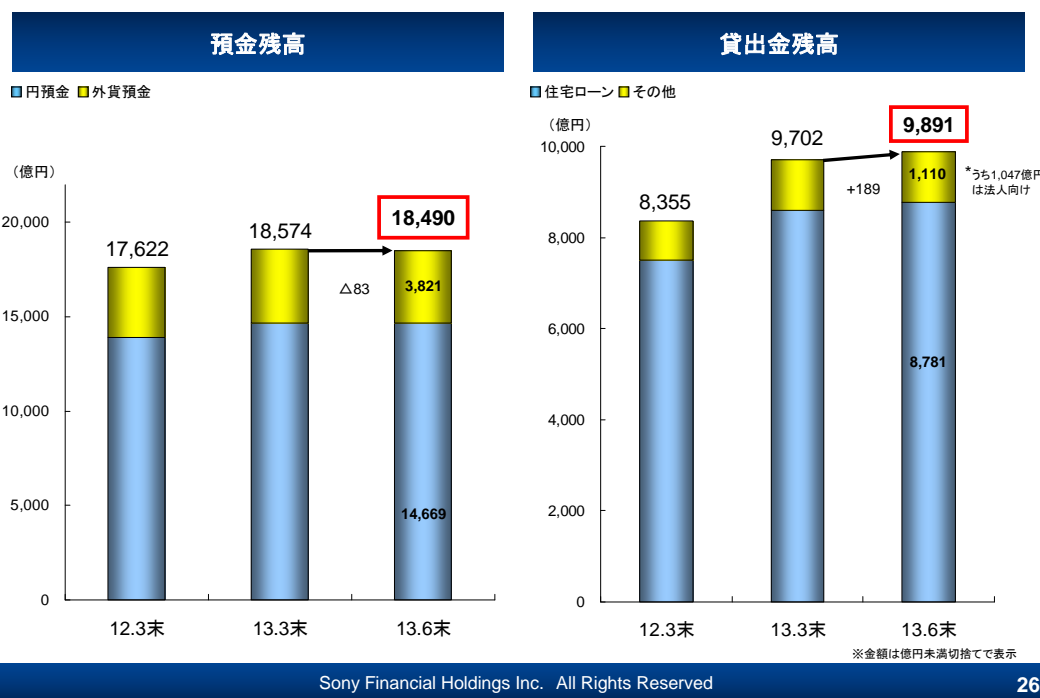
青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、1.22%となりました。

赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、0.28%となりました。

その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは、0.94%となりました。

スライド26をご覧ください。

# ソニー銀行の業績(単体)①



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

(左側のグラフ)

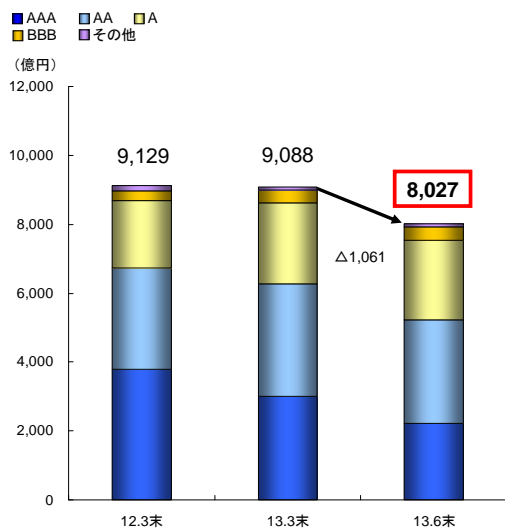
預金残高は前年度末に比べ83億円減少し、1兆8,490億円となりました。うち、円預金の残高は、円安進行にともなう外貨預金からの振替えがあったものの、低金利による魅力低下もあり、前年度末に比べてほぼ横ばいの1兆4,669億円となりました。また、外貨預金は、為替相場の円安進行により、売買は活発化したものの、円預金への振替えが進み、残高は前年度末比80億円減少の3,821億円となりました。

(右側のグラフ)

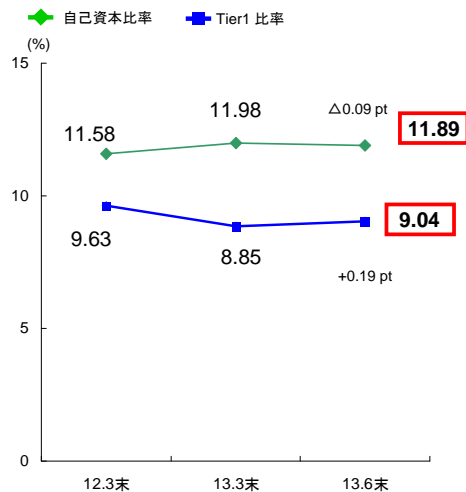
貸出金残高については、住宅ローンの順調な伸びにより、前年度末に比べ189億円増加し、9,891億円となりました。

スライド27をご覧ください。

## 格付別の有価証券残高の推移



## 自己資本比率(国内基準)の推移



(注) 平成18年(2006年)金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。

※金額は億円未満切捨てで表示

### (左側のグラフ)

有価証券残高は、前年度末に比べ1,061億円減少し、8,027億円となりました。引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

### (右側のグラフ)

自己資本比率は、11.89%となりました。前年度末比0.09ポイントの低下ですが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。続きましてスライド29をご覧ください。

## 2013年度 連結業績予想



## 2013年度連結業績予想

2013年度 連結業績予想は、2013年5月9日に公表した数値から変更なし。

(億円)	FY2012 (通期実績)	FY2013 (通期予想)	増減率
<b>連結経常収益</b>	12,590	12,220	△2.9%
うち生命保険事業	11,423	10,999	△3.7%
うち損害保険事業	847	885	+4.5%
うち銀行事業	343	340	△0.9%
<b>連結経常利益</b>	792	690	△12.9%
うち生命保険事業	727	614	△15.5%
うち損害保険事業	23	30	+30.4%
うち銀行事業	39	43	+10.3%
<b>連結当期純利益</b>	450	370	△17.9%

### ■生命保険事業

経常収益は、保険料等収入の堅調な増加を見込むものの、2012年度に見られた市況回復にともなう特別勘定の資産運用収益の増加を2013年度においては想定しておらず、減収を見込む。経常利益は、市況回復により変額保険の最低保証に係る責任準備金の戻入が生じた2012年度に対し、こうした市況変動による利益増減を織り込んでいないこと、および標準利率改定の影響による責任準備金繰入額の増加が見込まれることから、減益を見込む。

### ■損害保険事業

経常収益は、自動車保険を中心とした正味収入保険料の堅調な増加を見込んでいることから、増収を見込む。経常利益は、増収に加え、損害率の低下を見込んでいるため、増益を見込む。

### ■銀行事業

経常収益は、住宅ローンを中心とした貸出金残高の増加により資金運用収益の増加を見込むものの、ソニー銀行の連結子会社であるスマートリンクネットワークの減収を見込んでいることなどから、減収を見込む。経常利益は、業容拡大にともなう業務粗利益の安定的な増加などにより、増益を見込む。

(注) 金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示。

2013年度 連結業績予想は、2013年5月9日に公表した数値から変更していません。

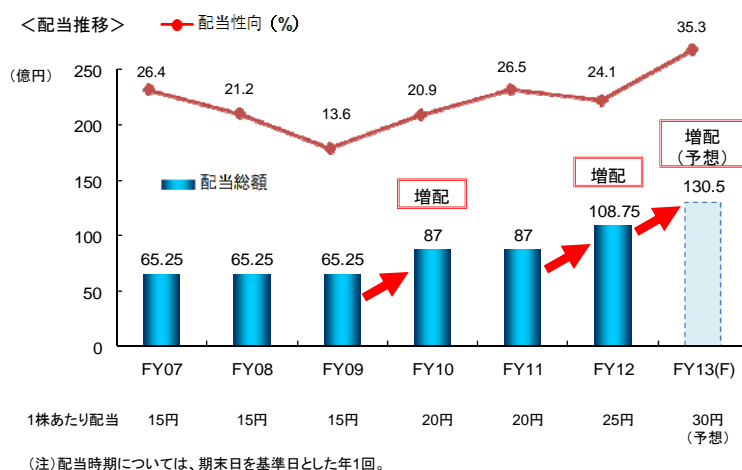
スライド31をご覧ください。

## 2013年度 期末配当予想の上方修正



## 2013年度 期末配当予想の上方修正

- FY13期末配当予想について、事業環境や業績動向等を勘案し、1株25円から30円へ上方修正し、前期に引き続き増配を実施。
- 中期的な配当性向目標はグループ連結の当期純利益の30~40%としており、引き続き、経営環境を考慮しつつ、安定的に配当額を引き上げていく方針。



2013年度の配当予想についてご説明いたします。

当社は、グループの事業環境や財務健全性等を考慮しつつ、中長期的な業績の拡大に応じて安定的に配当を増やしていくことを方針とし、株主還元の拡充に取り組んでおります。

2013年度の期末配当予想を、5月20日に開示した1株当たり25円から5円上方修正の1株あたり30円とし、前期に引き続き増配を実施いたします。

続きまして、スライド33をご覧ください。

## ソニー生命の2013年6月末MCEV および経済価値ベースのリスク量





## ソニー生命の2013年6月末MCEV

(億円)	13.3末	13.6末	増減
MCEV	10,647	11,499	+852
修正純資産	7,708	5,725	△1,983
保有契約価値	2,939	5,774	+2,835

(注)(1) 2013年6月末の保有契約をベースとして、解約・失効率と経済前提をアップデート。  
 (2) 2013年6月末の計算は、一部簡易な計算を実施。

- ◆ 超長期金利の上昇により、主に満期保有債券の含み益が減少し、修正純資産は大幅に減少しましたが、保有契約価値はこれを上回って増加しました。
- ◆ 新契約価値(新契約マージン)については、2013年3月末の年間(12カ月)416億円(3.5%)に対し、2013年6月末(3カ月)では171億円(6.5%)となりました。新契約マージンの上昇は、主に超長期金利上昇と、2013年4月に実施した保険料率改定の影響によるものです。

(注)新契約マージンは「新契約価値 / 収入保険料現価」です。

※ 本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

ソニー生命の2013年6月末のMCEVは、2013年3月末と比べて852億円増加し、1兆1,499億円となりました。

超長期金利の上昇により、主に満期保有債券の含み益が減少し、修正純資産は大幅に減少しましたが、保有契約価値はこれを上回って増加しました。

新契約価値については、2013年3月末の年間416億円に対し、2013年6月末は、3ヶ月間で171億円となりました。

また、新契約マージンは、2013年3月末の3.5%に対し、2013年6月末は、6.5%となりました。新契約マージンの上昇は、主に超長期金利上昇と、2013年4月に実施した保険料率改定の影響によるものです。

次に、経済価値ベースのリスク量について、ご説明いたします。  
 スライド34をご覧ください。

## ソニー生命の2013年6月末経済価値ベースのリスク量

(億円)	13.3末	13.6末
保険リスク	6,056	5,972
市場関連リスク	2,899	2,345
うち金利リスク*	2,342	1,754
オペレーショナルリスク	260	250
カウンターパーティリスク	23	17
分散効果	△2,625	△2,413
経済価値ベースのリスク量	6,613	6,170

(億円)	13.3末	13.6末
MCEV	10,647	11,499

\*ただし、市場関連リスク内での分散効果考慮前

◆ **市場関連リスクを抑制することで、資本の十分性を確保。**

(注) 経済価値ベースのリスク量とは、ソニー生命が保有する各種リスク(保険リスク、市場関連リスク等)を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量です。  
 (注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、EUソルベンシー II (QIS5) の標準モデルを参考にした内部モデルを採用しています。

※ 本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

2013年6月末の経済価値ベースのリスク量は、6,170億円で、経済価値ベースの自己資本に相当するMCEVに対し、高い健全性を維持しております。

保有するリスクのうち、保険リスクは5,972億円、市場関連リスクは2,345億円と、2013年3月末の6,056億円、2,899億円から、主に超長期金利の上昇により減少しております。

今後も新契約獲得により保険リスクの増加が見込まれる一方、金利リスクをはじめとした市場関連リスクをALMIによって抑制してまいります。そして、経済価値ベースの企業価値の向上を図ります。

以上で説明を終了いたします。

ありがとうございました。

## 参考情報



## その他トピックス①

### ソニーライフ・エイゴン生命の営業状況

営業開始：2009年12月1日

資本金：200億円(資本準備金100億円を含む)

株主：ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

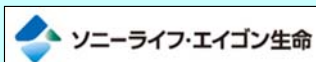
取扱商品：変額個人年金保険(3種類4商品)\*

販売チャネル：ライフプランナー、および銀行等(計12社)\* 2013年8月12日現在\*

主要業績指標(2013年度第1四半期)：

新契約件数：6,812件(前年同期比：+5,737件)、新契約高：396億円(前年同期比：+321億円)

2013年6月末：保有契約件数：16,762件(前年同期比：+12,036件)、保有契約高：1,133億円(前年同期比：+765億円)



※金額は億円未満切捨てて表示

### ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

■ 2013年6月末の住宅ローン残高の25%

2013年度第1四半期の住宅ローン新規融資実行金額の22%

※銀行代理業務取扱い開始：2008年1月



### ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

■ 2013年度第1四半期の新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取扱い開始：2001年5月



※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

## その他トピックス②

### <2013年度第1四半期以降の主な取組み>

2013年4月1日	損保	自動車保険の商品改定を実施 (新規インターネット割引8,000円に拡大、新等級制度の導入、保険料率の改定)
2013年4月2日	生保	一部商品の保険料率を改定
2013年5月1日	銀行	ソニー銀行への外貨送金における被仕向け送金手数料を無料化
2013年5月2日	生保	【新商品】『米ドル建保険』の発売
2013年6月25日	銀行	「ソニー銀行ソーシャルメディア公式アカウント」開設
2013年7月29日	銀行	NISA(非課税)口座開設の申込受付を開始

有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	12.3末			13.3末			13.6末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	34,048	35,606	1,558	38,742	44,259	5,517	40,129	43,123	2,994
其他有価証券	8,951	9,561	609	9,559	10,792	1,232	9,784	10,674	889
公社債	8,491	9,026	534	9,253	10,369	1,116	9,443	10,207	763
株式	291	349	58	147	209	62	162	244	81
外国証券	153	167	13	144	186	42	163	199	36
その他の証券	14	17	2	14	26	11	14	22	7
合 計	42,999	45,168	2,168	48,302	55,052	6,750	49,913	53,797	3,883

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

12.3末		13.3末		13.6末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
-	-	-	-	-	-

(注) 上記の売買目的有価証券は、「金融の信託」に含まれているものを含む。

※金額は億円未満切捨てて表示

## ソニー生命の利配収入内訳

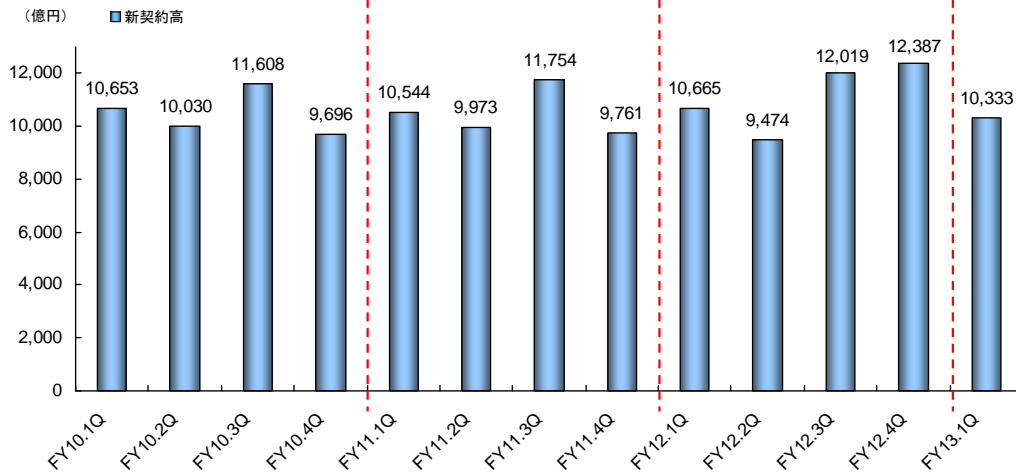
(百万円)

	FY12.1Q	FY13.1Q	前年同期比
現預金	0	<b>0</b>	△65.3%
公社債	20,828	<b>23,649</b>	+13.5%
株式	68	<b>48</b>	△30.1%
外国証券	697	<b>1,253</b>	+79.6%
その他の証券	78	<b>11</b>	△85.5%
貸付	1,342	<b>1,394</b>	+3.9%
不動産	2,710	<b>2,560</b>	△5.5%
その他	8	<b>10</b>	+18.2%
合計	25,735	<b>28,926</b>	+12.4%

※金額は百万円未満切捨て

# ソニー生命の新契約高の四半期推移

## 新契約高の四半期(3ヶ月)ごとの推移



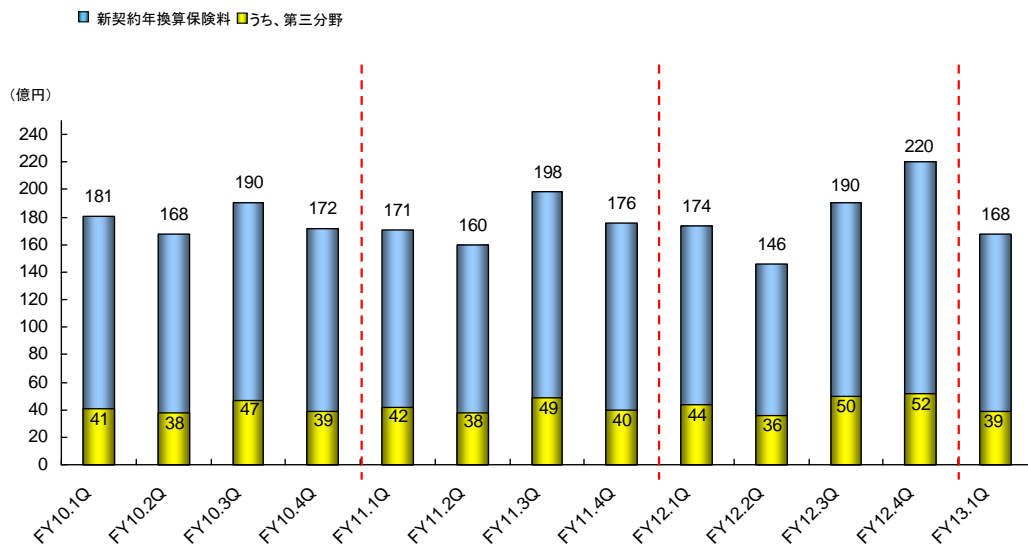
※金額は億円未満切捨てて表示



# ソニー生命の新契約年換算保険料の四半期推移



## 新契約年換算保険料の四半期(3ヶ月)ごとの推移



※金額は億円未満切捨てて表示

# ソニー生命の経済価値ベースのリスクの測定方法(1)



## ■ 市場関連リスク

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
金利リスク 右のShockを与えた時の、 経済価値純資産の変動 以下同じ	外貨金利上昇 1.33倍～10.39倍 (各通貨・年限ごとに異なる) 円金利低下 0.07倍～0.67倍 但し最低1%低下	金利上昇 1.25倍～1.70倍 金利低下 0.25倍～0.73倍 但し最低1%低下
株式リスク	上場株式・REIT 45%下落 非上場株式 55% その他証券 70% 子会社・関連会社・政策投資 100%	Global 30% Others 40% (注2)
不動産投資リスク	不動産 25%	同左
信用リスク	信用リスク=(時価)×(格付毎のリスク係数) ×修正デレーション 尚、修正デレーションには格付けにより、キャップとフロアーがある。 (例) A格:リスク係数(1.4%)、キャップ(23)、フロアー(1)	同左
為替リスク	不利な方向へ30%変化	不利な方向へ25%変化

(注1) 2013年6月末現在 主要な項目。市場関連リスクについては、QIS5の手法を参考にしているが、日本市場の過去データへの適用・最新データの反映等を行っているため、QIS5との相違が生じる。

(注2) 標準リスク係数はGlobal:39%/Other:49%、symmetric adjustment(過去一定期間の株価インデックスの平均値を基準として±10%以内で加える調整)が適用され、QIS5試行時点(2009年12月末)は30%/40%。

## ソニー生命の経済価値ベースのリスクの測定方法(2)

### ■ 保険リスク

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
死亡リスク	各経過年の死亡率が15%増加	同左
生存リスク	各経過年の死亡率が20%減少	同左
解約リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各経過年の解約率が50%増加</li> <li>・各経過年の解約率が50%減少</li> <li>・解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%が、直ちに解約</li> </ul> これらの最大値(注)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Life区分50%増加、Health区分20%増加</li> <li>・Life区分50%減少、Health区分20%減少</li> <li>・解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%(団体年金等は70%)が、直ちに解約</li> </ul> これらの最大値
事業費リスク	各経過年の事業費が10%増加 インフレ率が1%上昇	同左
疾病リスク	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加 回復率が20%減少。

(注) ソニー生命は個別契約毎の大小比較を実施



お問い合わせ先:  
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社  
広報・IR部  
TEL:03-5785-1074

